

薬剤師確保計画の概要

1. 背景

- ・薬剤師は、地域の医療提供における薬物療法の有効性・安全性の確保や公衆衛生の向上及び増進等に資するため、調剤等の実務に加え、病院薬剤師にあつては病棟業務やチーム医療等、薬局薬剤師にあつては在宅医療や高度な薬学的管理を行う機能等を中心とした業務・役割の更なる充実が求められている。
- ・「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」で、薬剤師の従事先には地域偏在と業態偏在があり、特に病院薬剤師の確保が喫緊の課題であると指摘された。
(令和3年6月)
- ・「医療計画作成指針」に、「地域の実情に応じた薬剤師確保等の実施等」が新たに記載された。(令和5年3月)
- ・厚生労働省が、都道府県が薬剤師確保対策を検討する際の参考とする「薬剤師確保計画ガイドライン」(以下「ガイドライン」という。)を発出した。(令和5年6月)
- ・今後、島根県の薬剤師不足が継続した場合、薬剤師に求められる業務・役割を十分に果たせなくなることが懸念される。
- ・そこで、今般、島根県では、薬剤師確保の取組を一層推進するため、保健医療計画の一部として「薬剤師確保計画」を策定する方針とした。
※「医師確保計画」と異なり、法律上の策定義務なし。

2. ガイドラインの概要

(1) 薬剤師偏在指標

- ・人口10万人対薬剤師数が、薬剤師の多寡を統一的・客観的に把握するための「ものさし」として不十分であることから、現在・将来人口を踏まえた医療ニーズ等に基づき、薬剤師偏在の度合いを示す指標(薬剤師偏在指標)を導入

$$\text{薬剤師偏在指標} = (\text{調整薬剤師労働時間}) / (\text{薬剤師の業務量})$$

- ・薬剤師偏在指標は、「都道府県」・「二次医療圏」別に、「病院」・「薬局」・「地域別(病院+薬局)」でそれぞれ算出
- ・算定に当たっては、一定の仮定が必要であり、また、入手できるデータの限界などにより指標の算定式に必ずしも全ての薬剤師偏在の状況を表しうる要素を盛り込んでいるものではないということを踏まえて、数値を絶対的な基準として取り扱うことや機械的な運用を行うことのないよう十分に留意する必要あり。

(2) 目標偏在指標

- ・「調整薬剤師労働時間」と「薬剤師の業務量」が等しくなる時の偏在指標、すなわち「1.0」と定義

(3) 区域

- ・都道府県及び二次医療圏において、病院薬剤師と薬局薬剤師のそれぞれの偏在状況は異なると考えられることから、両者の比較を可能とするため、都道府県及び二次医療圏のそれぞれについて、病院薬剤師・薬局薬剤師の両者の偏在指標を並べて上で区域を設定
- ・目標偏在指標（1.0）より偏在指標が高い都道府県及び二次医療圏を「薬剤師多数都道府県」及び「薬剤師多数地域」、目標偏在指標（1.0）より偏在指標が低い都道府県及び二次医療圏のうち下位 1/2 に位置する都道府県及び二次医療圏を「薬剤師少数都道府県」及び「薬剤師少数地域」に設定

(4) 目標薬剤師数

- ・薬剤師少数地域が下位1/2の基準を脱するために要する薬剤師数を、目標薬剤師数として設定

(5) 施策

- ・薬剤師少数地域に所在する病院・薬局に対する取組を推進

(6) 目標年次・計画期間・スケジュール

- ・目標年次は、2036（令和18）年
- ・計画期間は、原則3年間
- ・2023（令和5）年に計画策定、2024（令和6）年から取組

3. 県計画の方向性

- ・ガイドラインの考え等を参考に、地域の実情に応じた計画を策定

1 二次医療圏域別の充足率及び薬剤師数の推移

※県調査、充足率(%) = (現薬剤師数) / (必要薬剤師数) × 100

(1) 病院

	年次 (年)	島根県	二次医療圏						
			松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
充足率 (%)	平成30(2018)	81	83.3	74.4	87.6	58.5	82.4	69.4	66.7
	令和元(2019)	84.1	90.1	68.1	86.4	68.9	80.2	79.5	63
	令和2(2020)	85.3	88.1	77.5	91.4	68.2	72.5	81.3	80
	令和3(2021)	87.7	91.3	71.9	92.2	75	82.2	79.3	80
	令和4(2022)	87.9	87.2	82.1	94.7	72.1	87.1	83.2	66.7
薬剤師数 (人)	平成30(2018)	269.1	89.5	11.8	99.4	11.3	28.1	25	4
	令和元(2019)	280.3	99.7	12.8	101.6	11.1	28.4	23.3	3.4
	令和2(2020)	282.7	100.3	13.8	105.8	10.7	26.4	21.8	4
	令和3(2021)	290.6	105.1	12.8	106.6	12	27.2	23	4
	令和4(2022)	291.4	102.2	13.8	106.6	12.9	27.1	24.8	4
必要薬剤師数 (人)	平成30(2018)	332.1	107.5	15.8	113.4	19.3	34.1	36	6
	令和元(2019)	333.3	110.7	18.8	117.6	16.1	35.4	29.3	5.4
	令和2(2020)	331.3	113.9	17.8	115.8	15.7	36.4	26.8	5
	令和3(2021)	331.5	115.1	17.8	115.6	16	33.1	29	5
	令和4(2022)	331.4	117.2	16.8	112.6	17.9	31.1	29.8	6

(評価)

- ・充足率及び薬剤師数ともに、年々上昇しているが、依然として十分な薬剤師が確保されていない。
- ・「雲南、県央、益田、隠岐」の圏域で、特に充足率が低い。

(2) 薬局

	年次 (年)	島根県	二次医療圏						
			松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
充足率(%)	平成30(2018)	85.3	85	83.4	87.8	89.5	86.3	78.4	86.7
	令和2(2020)	88.1	89	90	89	85.2	85.1	86.8	91.7
	令和4(2022)	86.1	84.3	83.9	87.7	90.6	86.8	85.1	87.1

(評価)

- ・充足率は、ほぼ横ばいであり、依然として十分な薬剤師が確保されていない。
- ・薬剤師数は、年毎で回答薬局数が異なること等から評価が難しい。

2. 二次医療圏別の薬剤師偏在指標

※国算出、将来：2036（令和18）年

区分	現在 将来	全国	島根県	全国 順位	二次医療圏						
					松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
病院	現在	0.80	0.70	34	0.76	0.40	0.94	0.33	0.55	0.52	0.37
	将来	0.82	0.80	23	0.80	0.51	0.99	0.45	0.69	0.66	0.46
薬局	現在	1.08	0.93	30	0.95	0.60	1.12	0.71	0.83	1.08	0.56
	将来	1.22	1.16	21	1.10	0.91	1.25	1.09	1.11	1.52	0.83

薬剤師多数
薬剤師少数
多数でも少数でもない

（参考）

地域別	現在	0.99	0.86	32	0.89	0.54	1.06	0.60	0.75	0.90	0.51
	将来	1.09	1.04	21	1.00	0.78	1.15	0.89	0.98	1.22	0.71

※「地域別」は参考（区域設定なし。）

（評価）

● 「病院」

- ・現在・将来ともに、全県域で薬剤師が不足（目標偏在指標（1.0）以下）
- ・「雲南、大田、浜田、益田、隠岐」の圏域で、特に薬剤師が不足
- ・現在の状況では、県調査による充足率と同様な傾向

● 「薬局」

- ・現在の状況では、「雲南、大田、隠岐」の圏域で、特に薬剤師が不足
- ・将来の推計では、「雲南、隠岐」の圏域で、薬剤師が不足
- ・現在の状況では、県調査による充足率とやや異なる傾向